

番号	議題	質問・意見	当日の回答・対応等
1	議題1	<p>岐阜大学病院は特定機能病院であり、ドクターヘリの基地にもなっているため、今後も岐阜県全体の急性期を担っていくことは変わらないと考えられる。</p> <p>大学病院と県で医師、看護師、薬剤師等の医療人材の確保について、システム体制の構築を進めていく。</p> <p>大学病院としては急性期拠点病院として残していただきたい。</p>	
2		<p>県総合医療センターは5つのセンター機能を中心として、高度急性期医療を中心に医療を提供している。</p> <p>救急車の受け入れ件数は年間6000件ほど、全身麻酔を伴う手術の件数もかなり多い状態であることから、急性期拠点病院としての使命を残していただきたい。</p>	
3		<p>岐阜市民病院は地域の救急、急性期医療に貢献するため、救急車も可能な限り受け入れている。一部の診療科では医師が不足しているところもあるが、自治体病院として小児や精神の救急も受けており、今後も各病院との連携を深めてやっていきたい。</p>	
4		<p>急性期拠点機能を担う病院に人材が集中することで、それ以外の病院で人材の確保が難しくなることを心配している。</p> <p>赤十字病院は災害拠点病院や感染症対応も担っているため、そういった機能をどうしていくか考える必要がある。</p>	
5		<p>高齢者救急は重症、重病の方が多いため、急性期拠点病院が担う機能との線引きがどこまでできるか懸念がある。</p>	
6		<p>医療圏について、周産期医療は現状の二次医療圏のまま準ずることができるのか、見直しが必要ではないか。周産期に限らず、特殊な医療における医療圏は別個に考える必要はあるのではないか。</p>	
7		<p>医者を始めとした人材確保について、急性期拠点病院からそれ以外の病院へ、病院の垣根を越えて、時間外や土日等に応援をいただけるような体制を構築していくことが非常に大事である。</p> <p>高齢者救急・地域急性期機能を担う病院とのバランスを検討していく必要がある。</p>	
8		<p>調整会議に参加していない病院がたくさんあり、急性期拠点病院を決める上で、全病院が同じように発言する権利があるのではないかと。枠が限られているが数が適切かどうか、もっと意見を吸い上げないと不公平感が出てしまうのではないかと。</p> <p>飛驒のように病院間同士で話し合える場が大事である。</p> <p>多くの病院に対してもっとしっかり地域医療構想を理解してもらわないといけない。</p>	<p>いかにすべての病院にご理解いただき進めていくかということは非常に大切な観点だと考えている。</p> <p>(事務局)</p>

番号	議題	質問・意見	当日の回答・対応等
9		地域医療構想に非協力的、あるいは無関心な医療機関があると地域医療構想を進める上での一つの足枷となるため、特に公立公的病院に対して県から指導してほしい。 急性期拠点機能を担う医療機関数の想定数について、人口20万人で算出するのと30万人で算出するのでは違ってくるので、一方だけでなくそれぞれを併記した方がよい。	
10		医育機関は三次医療圏で検討することとなっている。大学病院は岐阜圏域だけの拠点病院ではないのではないか。岐阜県全体の急性期拠点病院とするなど、病院の立場を明確にするべきではないか。	大学病院は岐阜県唯一の特定機能病院として、高度先進医療を行う使命がある。岐阜県全体をみて三次救急や人材の派遣育成を担っている。岐阜圏域に位置していることから、岐阜圏域の患者が中心に来られるが、両方の面で考えて大学病院という組織を運営している。 (岐阜大学医学部附属病院)
11		今まで精神科は地域医療構想そのものの対象ではなかったが、今後組み込まれていく中で、産科と同様に二次医療圏で完結しない部分があるため統合的に検討していく必要がある。	
12		各務原市では東海中央病院を中心に高齢者救急や急性期を担っている。急性期拠点病院へ集約することで、患者が偏り救急患者を受け入れてもらえない状況ができないか心配である。隣県や他圏域とも連携も含めて考えていきたい。	
13		大学病院の位置づけについて、他府県の例があれば参考にしたい。 急性期拠点病院について、各病院の意向を大切に話し合いを行い、全体が納得できる形で進めていく必要があるのではないか。	
14		急性期拠点病院以外の病院が、それぞれの特色を生かしてどのように役割を担っていくかを今後検討する必要がある。 急性期拠点病院の中ですら、十分に医師が充足していない診療科があるため、大学病院には各診療科の医師のリクルート要請にご尽力いただきたい。	
15		高齢者は遠距離の移動が困難であるため、高齢者救急が可能な限り地域で完結するように、体制を構築していただきたい。	
16		高齢化が進んでいる中で、急性期拠点病院と高齢者救急・地域急性期の機能を担う病院を一緒に考えていくべきではないか。 岐阜圏域以外では、急性期拠点病院から人材を派遣する余裕はないのではないか。	
17		地方の圏域では看護職が不足するため病床を開けないと言われていたが、機能に応じて必要な人材を派遣できるような体制を緊急に検討していかなければならないと考える。	
18		適正な医療のため、重複している非効率の部分なども、この機に洗い出して連携をしてほしい。	

番号	議題	質問・意見	当日の回答・対応等
19		医療を受ける側の立場としては、他の医療圏や隣県の医療機関等との連携（搬送等）があれば安心して受診できる。	
20		今後高齢者の数が増える中で、急性期拠点病院以外の医療機関が高齢者救急をしっかりと担っていく必要がある。	
21		岐阜圏域は関係者が多く意思統一を図っていくことが大変であり、各関係者が、受け身ではなく、自分たちの利益最優先ではなく全体の利益を最優先で考えていくことが大事と考える。	
22		各圏域が大学病院に対して特に人材派遣について大きく期待している。大学病院は一つ上の立場で見えていただき、岐阜圏域の急性期拠点としては3病院でよいと考える。	
23		県総合医療センターは6,000件ほど救急を受けてほぼいっぱい状態と思われるため、高齢者救急や地域急性期機能について各病院に受け持ってもらおうよう県から強く押し進めてほしい。	
24		大学病院から急性期拠点病院へ、急性期拠点病院から地域の病院へ人材を派遣する際に、圏域内で複数の拠点病院があるため、どのように地域を分けるのか、今後検討していく必要がある。	
25		医師数に比べて歯科医師数は非常に少なく、病院歯科との連携をとりながら急性期拠点機能を歯科として発揮できるように進めていきたい。	
26	アドバイザー	新たな地域医療構想では、病院の問題だけでなく、在宅や介護に至る分野まで幅広い議論が必要になってくる。医師のタスクシフトだけでなく、看護師薬剤師のタスクシフトについても検討がされ始めている。人材不足の中でどのように地域医療を守るのか、先生方のお知恵をいただき、少しでも良い医療を提供できるように進めていきたい。	
27	アドバイザー	地域枠制度も含めて順調に医師数は増えているが、まだ十分ではないため、今後も地域医療を志す有用な若手を入学させたいと考えている。県とも連携して、人材育成のあり方について制度を改善していきたいと考えている。	